

# 「モダリテ」概念の形成と近代フランスの旋法語法

—国家と宗教の関係から—

Création de la “Modalité” et le langage modal dans la musique française:  
sous l’influence de la nation et la religion, ca. 1850-1910

東京藝術大学博士学位論文  
2003年度（平成15年度）入学 [15-918]  
安川智子 YASUKAWA, Tomoko

# 目次

凡例・略号 3

序章	4
第一章：モダリテとは何か	12
1-1. 語義	12
1-2. モダリテをめぐる議論	14
1-2-1. ゴナールの著作と理論	14
和声と旋法 14 / ゴナールの理論とギュットの書評 17 / 旋律と旋法 23	
1-2-2. パワーズと <i>Analyse musicale</i> のモダリテ特集 (2001)	26
パワーズのモダリテ論 26 / ヴィレのモダリテ論 29	
1-3. 前提となる調性 (和声) 理論	33
1-3-1. 近代のトナリテの誕生	33
1-3-2. ラモー以降の調的系譜	35
第二章：モダリテを形成する知と権力	40
2-1. 国家と宗教と音楽	40
2-1-1. 「知識人」としての 19 世紀フランスの音楽家	40
知識人の条件 40 / 博物館精神 43 / フェティスとブリュッセル王立音楽院 48	
2-1-2. フランス政府と音楽教育の流れ	50
古楽と宗教音楽 50 / 芸術のアカデミズム化——音楽と知の提携 51	
2-2. 教会音楽復興とモダリテ理論の基礎	55
2-2-1. 教会音楽学校における教育とその成果	55
2-2-2. 単旋聖歌の伴奏法理論	58
教会は音楽にあらず? 58 / 新しい伴奏法とモダリテの誕生 64 / トナリテとモダリテをめぐる 思考 68	
2-2-3. フランスオルガン楽派の活躍	71
第三章：非宗教 (ライシテ) 時代のモダリテ	76
3-1. 普仏戦争敗北と文化的知識人への影響——宗教に変わるものの探求	76
3-2. ブルゴー=デュクドレのギリシア旋法理論	81
3-2-1. ブルゴー=デュクドレと万博講演	81
共和主義者 81 / ギリシアにおける調査時代 82 / 万博講演の特殊性 89	

3-2-2. モダリテの普及過程	99	
パリ音楽院音楽史クラス	99 / 『音楽百科事典』と「和声の変遷」	106
3-3. 民謡研究とナショナル・アイデンティティ	113	
3-3-1. ブルターニュの音楽とケルト	113	
フランスにおける民俗学とナショナリズム	113 / ブルゴーニ＝デュクドレのブルターニュ民謡調査	116
3-3-2. シャルル・ボルド創刊雑誌『フランスの歌』	124	
3-4. 近代フランスの旋法の確立？——モダリテが統合したもの	126	

#### 第四章：作曲家たちによる旋法使用法 ..... 131

4-1. 音楽例としての模範と再利用の仕組み	131
4-1-1. 理論書、事典、研究書に登場する旋法的音楽例とその傾向	131
4-1-2. 実例 1——伝統の継承：ベルリオーズ《キリストの幼時》	134
模範としての要素	134
4-2. モダリテによる分析の可能性	144
4-2-1. 再思考の基準	144
4-2-2. 実例 2——モダリテ分析の試み	146
ドビュッシー《前奏曲集第 1 集》より「1.デルフォイの舞姫たち」「10.沈める寺」	146
ケックラン《ブルターニュの歌》より	150

結論：音楽におけるフランス性としてのモダリテ	
——西洋の音楽知の軌跡と東洋世界との共存	..... 152

謝辞	156
参考文献表	157

補遺：	I. モダリテの定義と言説	164
	II. モダリテ理論のヴァリエーション	178
	III. 理論書、事典に登場する近代以降の旋法的音楽例一覧	184
	IV. パリ古文書館所蔵自筆資料書き起こしと抄訳	222